

---

# At the Clock Tower

流奈

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

A t t h e C l o c k T o w e r

### 【Nコード】

N 3 0 9 7 Z

### 【作者名】

流奈

### 【あらすじ】

時計塔はいつも、街の中央で時を刻んでいた。

その中で少女は、友人との会話や、時計塔の整備をしながら暮らしていた。

少女が過ごす、長い「いちにち」の物語。

絶えず聞こえる歯車の音。  
ときどき聞こえる鐘の音。

「この時計塔は、いつから動いているのかしらね」

彼女は楽しげに笑いながら首をかしげる。ここは時計塔。街の中心で、いつも時を刻んでる。

丁寧に整備しているから、時計塔の鼓動が途切れたことは一度だつてない。

「そんなに昔のことじゃないわ」

わたしが答えると彼女は、そう、とだけ呟いて、大きな窓から空を眺める。

その窓からは、雲ひとつない青空しか見えない。

上に行けば街を一望できるけれど、彼女には階段が辛いそうだ。

少し前まではなんでもないと笑いながら駆け上っていたのに。

「私たちが初めて会った日も、こんな天気だったわね。なつかしいわ」

「なつかしがるほどのことじゃないでしょう、つい昨日のことのようだよ」

わたしが言うと、彼女は寂しげに微笑んだ。

ふいに、異音がきこえた。歯車がさびついてきたようだ。

ああ、はやく直さないと。この時計塔の時が止まってしまつ。

「ちょっとおかしいところがあるみたい。直してくるわ」  
「そう、いつてらっしゃい」

寂しげに微笑んだまま手を振る彼女に見送られて、時計を直しに行く。

手早く歯車をきれいにして、あぶらを差す。

毎日こまめにやればいいだけなのだけれど、忘れてしまう。どうしてかしら。

終わったら、なにかおかしいことはないか見回りする。

「とくに異常はなさそうね」

確認して、上に向かう。

そういえば、さつきから彼女がいない。

いったいどこへ行ったのかしら。

そう思いながら階段を昇る。

「きれいな夕焼け…」

ここからは太陽は見えないけれど、街が真っ赤に染まっている。

街のひとびとが大声を上げているのが聞こえた。

なにかのお祭りでもやっているのかしら。ここまで聞こえてくるなんて、とつてもにぎやか。

ぼんやりとその様子を眺めて、下に戻る。

「…あら…?」

ふと気づけば、時計塔の鼓動が止まっていた。

どうしてかしら。はやく、はやく時計塔を直さないと。そう思うとすぐに道具を取りに行く。

この時計塔の命を守り続ける。それがわたしのなすべきことだから。

ほんとは、わかっていたの。

い。荒れ果てたこの街に、時を止めた時計塔を顧みるひとなんてない。

(後書き)

コンセプトは大人向けの童話：だったんですが、ただの意味がわからない話になってしまいました(汗)

「彼女」はどうなったのか、街はいつから荒れ果てていたのか、この語り手は何者なのか。

私は私なりの答えでこの物語を書きましたが、それを説明するのはやめておきます。

読み終えた後にみなさんが感じたこと、想像したこと。それがきくと、この物語の答えです。

つたない作品ですが、最後まで読んでくださり、ありがとうございます。ありがとうございました。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3097z/>

---

At the Clock Tower

2011年12月10日21時46分発行